

ごあいさつ

■近年制作した、「漢字仮名交

じりの書」二十余点を展示いたします。

いずれも「言葉を入力とする書表現の

展開」を私なりに試みたものです。

■思い起こせば、一九八五年一月に

美術史家宮川寅雄の「書家は、なぜ

自分の言葉を書かないのか」という

問いかけに接してから、ずいぶん時間が

経ちました。近年ようやく作歌に手を

染め、今回は主に自詠歌を題材として

制作してみました。山陰の地に住んで、

ほぼ四十年。歌の多くは、地域の人と自然に

まつわる折々の感懐を詠んでいます。

■作品の形式や大きさをほぼ同じものに

したのは、自己の内からの展開、そのプ

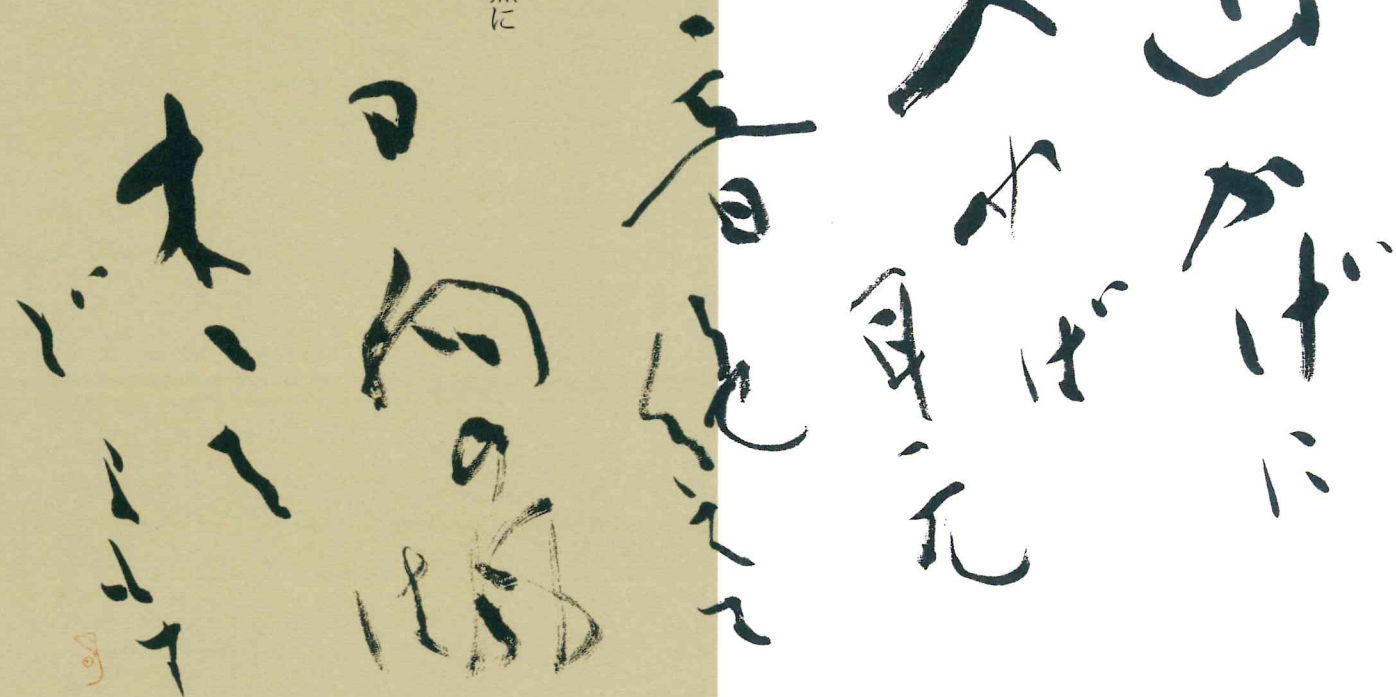
ロセスをご覧いただきたかったからです。

ご高覧、ご高評のほど、よろしく

お願いいたします。



鳥取市湖山池畔にて



住川英明 プロフィール

1957年 新潟県生まれ

1981年 新潟大学教育学部特別教科（書道）
教員養成課程卒業

1984年 筑波大学大学院修士課程芸術
研究科美術専攻（書コース）修了

同年鳥取大学教育学部助手

1992・1993年書道学会展において
文部大臣奨励賞受賞

1999年『墨場必携 名句を書く』
（共著／日本習字普及協会）発刊

2008年 鳥取大学教授

同年「住川英明書展—放哉頌—」開催

2023年 鳥取大学を定年退職

現在 岐阜女子大学文化創造学部・

同大学院文化創造研究科教授

鳥取大学名誉教授

鳥取県書写書道教育研究会会長

書道研究墨潮会副会長

一般財団法人鳥取市社会教育事業団理事長

公益財団法人渡辺美術館理事

